

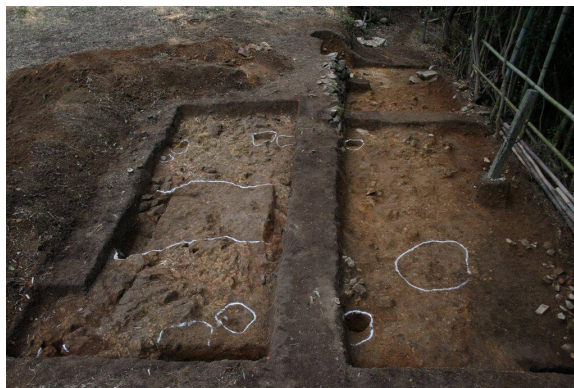
3. 調査の成果と課題

◎虎口（曲輪入口）の調査

通路や門状の遺構を確認

第1次調査では、虎口に直交して幅1.2m程の溝状に窪んだ遺構が確認されており、用途不明とされていました。今回、その周囲を拡張したところ、溝状遺構の両側に計6基の柱穴が並んでいることが分かりました。

おそらく、門のようなものがあり、その間の通路部分が人の往来のために若干窪んだものと考えられます。



◎東張出部の調査

やぐらの可能性のある掘立柱建物跡を確認

曲輪東側には、曲輪に入る通路に並行して方形の張出部が作られています。

張出部の形状に合わせて、南北6.8m、東西7m、3間×3間以上の建物の柱穴が確認できました。

曲輪へ敵が侵入するのを発見するために最適の場所でもあるため、見張り台のような建物が建っていたことが考えられます。



◎切岸周辺の調査

地鎮とみられる遺物が出土

西側の調査区では、土師質土器の皿の中に宋銭が入った状態で見つかりました。詰でも同じような遺構が確認されており、地鎮のための祭祀を行ったと考えられています。この曲輪でも建物の西側で見つかり、詰との共通性が見られます。

